

# 八千代市下高野の 富士講資料



蕨 由美

2022.5.15 八千代栗谷遺跡研究会

# 下高野の富士講関連の石造物



手洗石 明治33年2月26日 (1900)  
 「〔丸不二講講紋〕 奉納 仙元大神  
 大願成就／当村願主立石傳左工門」



登山記念碑 昭和3年3月吉日 (1928)  
 「〔割菱講紋〕 登山記念  
 立石榮衛 全茂雄 全光 全仁輔 全良助 全實 全政清 全勇 全越  
 小沢倉吉 全登 全節 深山隆 全敏 全理 全浦治 全慶助 全金造  
 世代 一 立石徳兵工 全利吉 全石太郎  
 二 全藤作 全鉄之助 小沢元治郎  
 三 立石良郎 全徳太郎 全 安太郎  
 世話人 徳兵工 立石徳太郎 庄左工門 全藤作 所左工門 全元吉」





小御嶽石尊大権現塔 文久2年2月吉日 (1861)  
 「小御岳 石尊大権現 大天狗 小天狗 / 女人講中  
 當村 立石傳左工門 同○左工門隱居 同○○○○○」



仙元宮石祠 嘉永2・2・13 (1849)

「仙元宮 當邑講中

世八人 立石藤右工門 立石傳左工門」

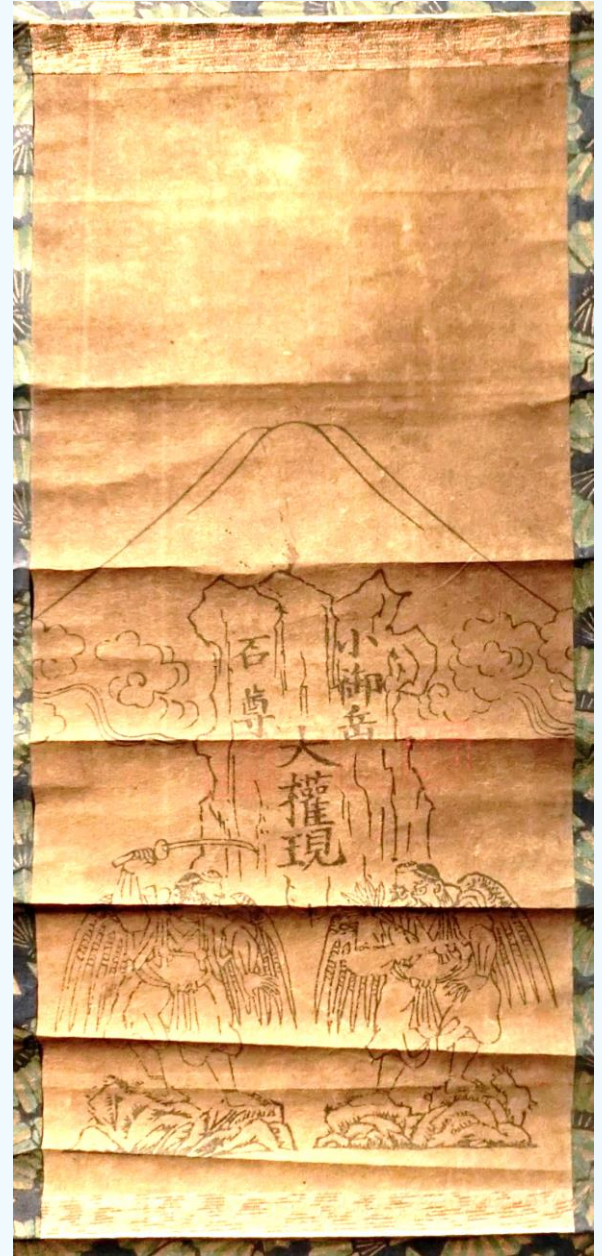
台石に三猿



## 下高野の富士講関連資料

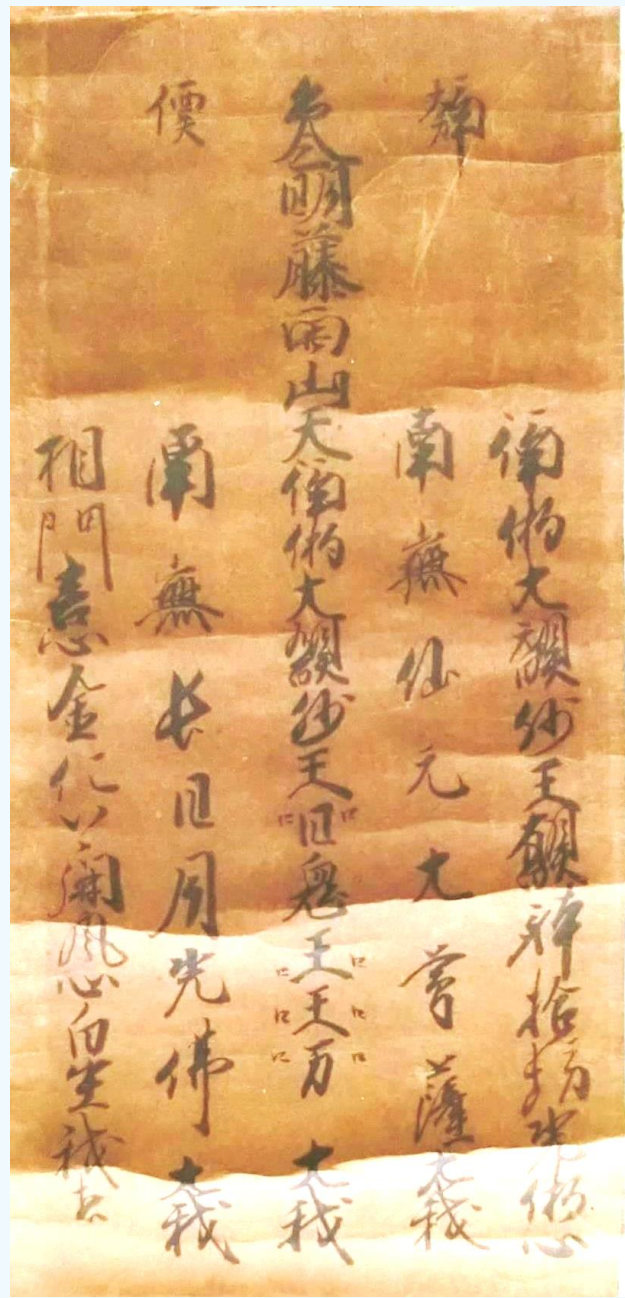
No	資料名	形態
1	掛軸「御身抜」（五行身抜）	紙本墨書軸装
2	掛軸「御身抜」（五行身抜）	紙本墨書軸装
3	掛軸「御身抜」（「烏帽子岩」の歌付き）	紙本墨書軸装
4	掛軸「小御岳石尊大権現」（大小天狗画像付）	紙本墨書軸装
5	掛軸「小御岳石尊大権現」（「砂山と・・・」の歌付）	紙本墨書軸装
6	掛軸「木花開耶姫命の図」	紙本採色画軸装
7	「不二行者世代巻」文書（弘化5年2月）	竪紙（2枚巻物状）
8	行名免状「真行真面」（明治33年6月15日）	竪紙
9	「崇判断」写し（大正12年2月3日）	折紙
10	御詠歌写し「追膳（善）御礼」他	竪紙
11	「富士講代々図」	版本
12	「浅間大神並扶桑教祖出現尊影」（明治19年7月）	版本
13	御札「角行尊師之真像」3点	
14	御札「富士山祈祷御璽」3点	
15	護符「オフセギ」	小切紙
16	「人穴御垢」	小袋（砂入り）

御三幅の掛け軸

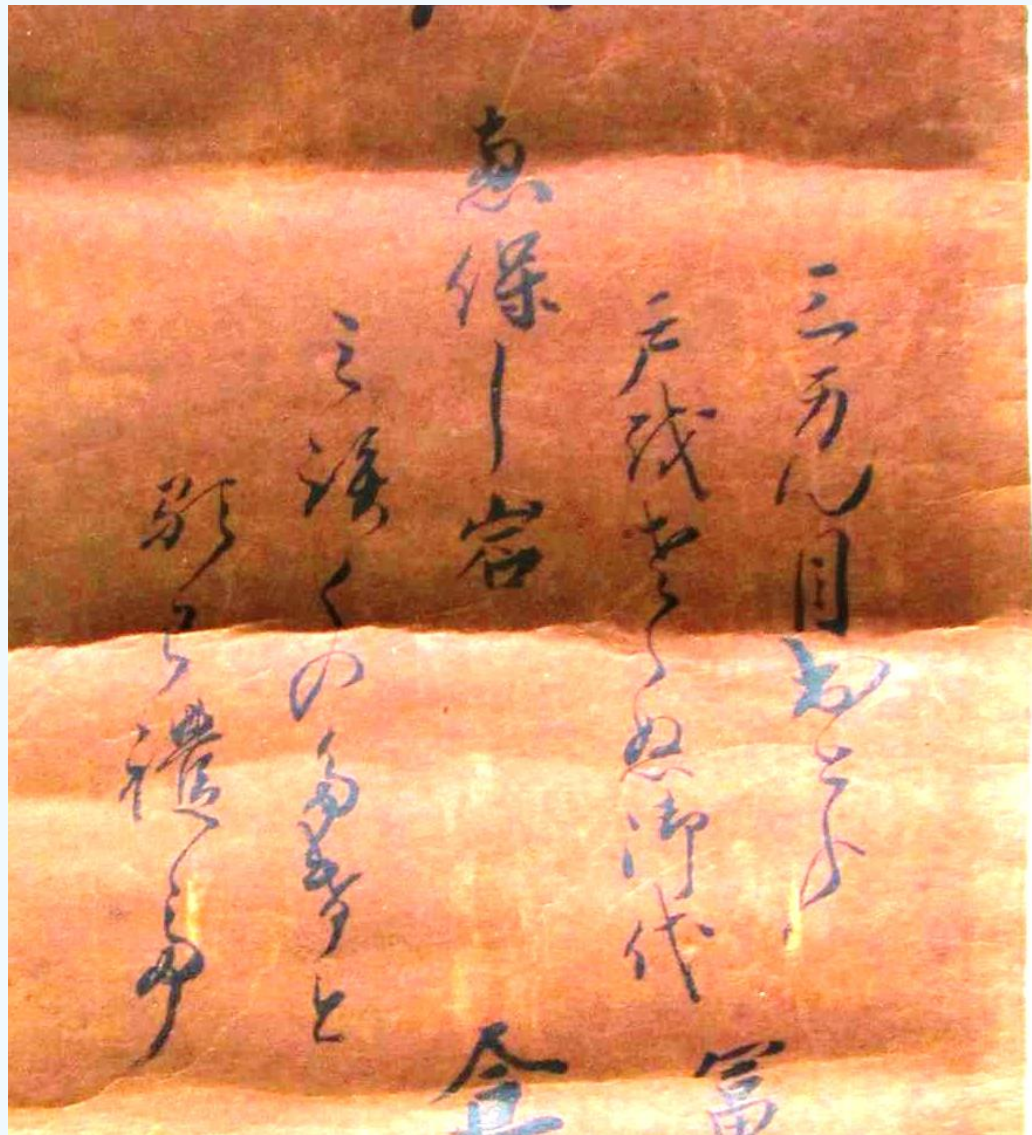
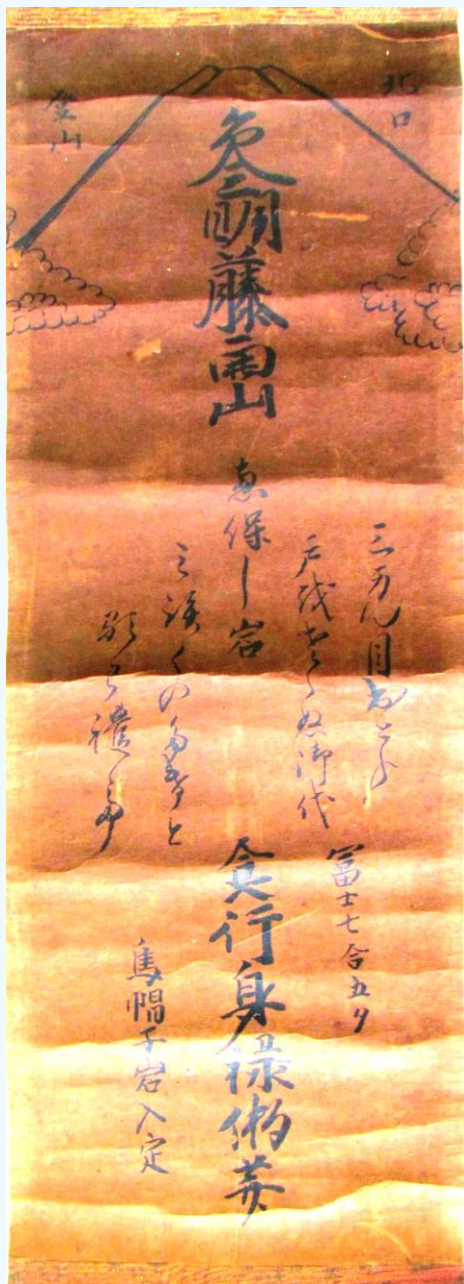


御見抜の唱え方

<p>倣<small>は</small>は</p>	<p>彌<small>ち</small>ち</p>
<p>参明<small>さんみ</small> 藤開山<small>とうかいさん</small> 天<small>てん</small> 補<small>ごう</small> 偈<small>くわ</small> 大<small>たい</small> 韻<small>い</small> 妙<small>み</small> 王<small>おう</small> 日<small>にち</small> 鬼<small>き</small> 王<small>おう</small> 万<small>まん</small> 大<small>たい</small> 我<small>が</small></p>	<p>南<small>なん</small> 無<small>む</small> 仙<small>せん</small> 元<small>げん</small> 大<small>だい</small> 菩<small>ぼ</small> 薩<small>さつ</small> 大<small>たい</small> 我<small>が</small></p>
<p>南<small>なん</small> 無<small>む</small> 長<small>ちやう</small> 日<small>じつ</small> 月<small>がつ</small> 光<small>こう</small> 仏<small>ぶつ</small> 大<small>たい</small> 我<small>が</small></p>	<p>南<small>なん</small> 無<small>む</small> 長<small>ちやう</small> 日<small>じつ</small> 月<small>がつ</small> 光<small>こう</small> 仏<small>ぶつ</small> 大<small>たい</small> 我<small>が</small></p>
<p>相門<small>そうもん</small> 言<small>げん</small> 心<small>しん</small> 金<small>こん</small> 仁<small>にん</small> 開<small>かい</small> 風<small>ふう</small> 心<small>しん</small> 白<small>しろ</small> 生<small>く</small> 我<small>わ</small> 者<small>は</small></p>	<p>相門<small>そうもん</small> 意<small>い</small> 金<small>こん</small> 仁<small>にん</small> 彌<small>ち</small> 思<small>し</small> 白<small>しろ</small> 生<small>く</small> 我<small>わ</small> 者<small>は</small></p>



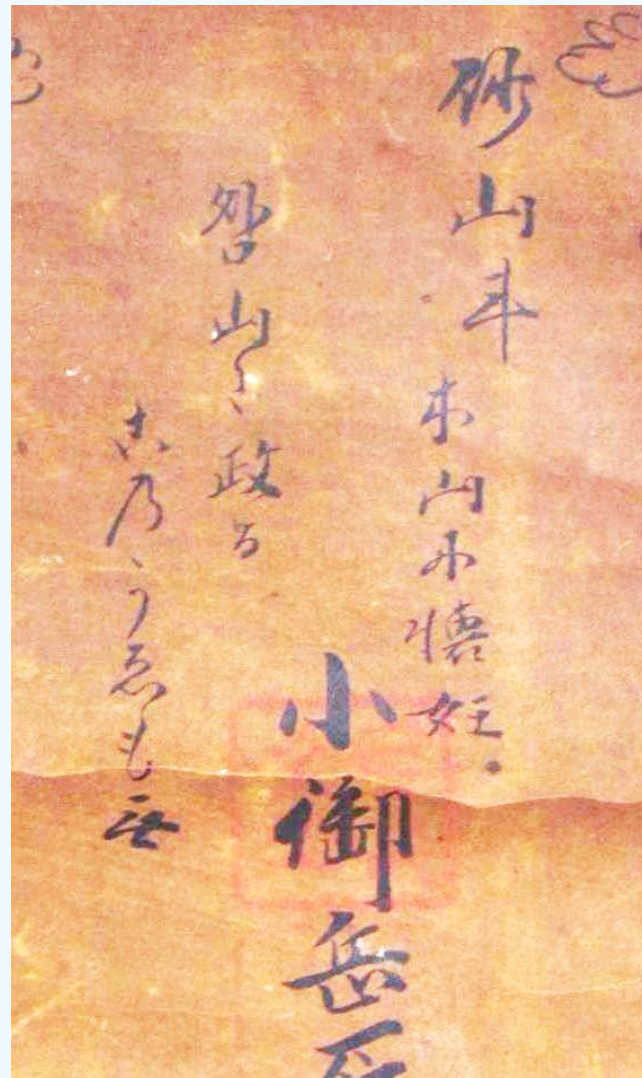
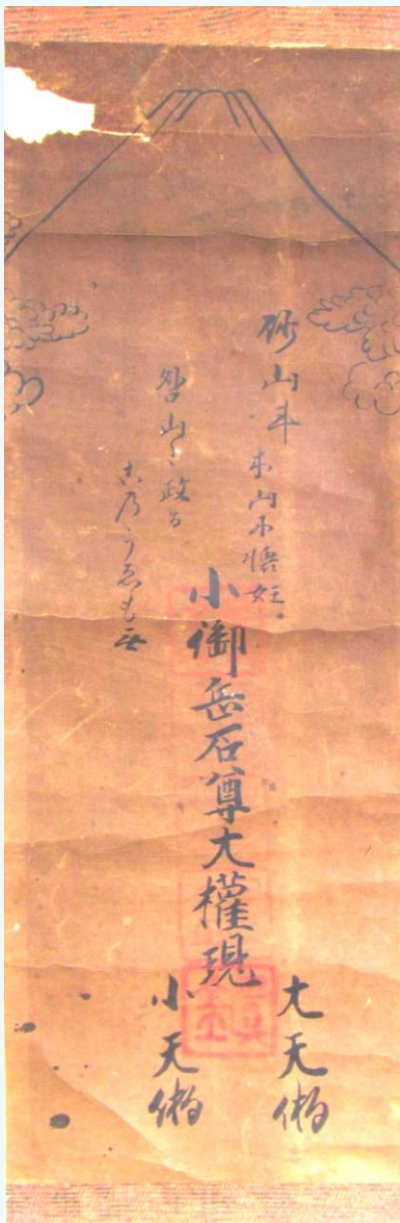
「烏帽子岩」の歌の御見抜



- (中) 急保し (烏帽子) 岩
- (左) みろく (身禄) のたけ (嶽) と / 頭われて
- (右) 三万 (方) めでとふ / 戸をさぬ御代 /



掛軸「小御岳石尊大権現」  
 (「砂山と・・・」の歌付)



「砂山と  
 木山に懐妊（はらむ）  
 小御嶽（は）  
 外山（とやま）に政（まさ）る  
 このうゑも無」

「不二行者世代卷」文書

不二行者世代卷

持富士山天地初より多御仙引と後一河山にして  
万物出まら根元也  
真仙土金乃うにいと家園乃長根を存付て  
天乃御中主乃命ト云 國常立乃命ト云

高御 皇乃号ト云

吞西方本師迹施佛ト云申莫大日如來ト云西目ト云

万場ト云降皇並つに一身世界根をとし心身并其志刺  
仙元天常薩多今少少一化天佛の身にし古人の信守勸業事

忘也多(物多)是世の中の一修り多を修る古來也  
少修治多(神術多)といふる亦存修一人五十二世乃皇乃

四事成乃号ト云ト云東夷河法代の神願ひ多て河神山に  
修り河神山有甚峻鐘天皇の願を修り天皇河山に冬珍

久一申年久一ト云ト云

三國東一山乃御額河神並其河山にして其家也修り行場と申り心  
乃多修り多乃神玉乃改革公土農工高乃修り多其家之業改勤

て天下由家(河)真修り多と其修業多事なり其修業事なり  
外(他)更なり其の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

一書 少年列 二書 月日見列  
三書 川口烟 四書 西の列  
五書 荒川烟 六書 生連烟  
七書 中津烟 八書 源戸烟  
九書 河津烟 十書 御所八津行  
十一書 河津烟 十二書 河津烟  
十三書 河津烟 十四書 河津烟  
十五書 河津烟 十六書 河津烟  
十七書 河津烟 十八書 河津烟  
十九書 河津烟 二十書 河津烟  
二十一書 河津烟 二十二書 河津烟  
二十三書 河津烟 二十四書 河津烟  
二十五書 河津烟 二十六書 河津烟  
二十七書 河津烟 二十八書 河津烟  
二十九書 河津烟 三十書 河津烟  
三十一書 河津烟 三十二書 河津烟  
三十三書 河津烟 三十四書 河津烟  
三十五書 河津烟 三十六書 河津烟  
三十七書 河津烟 三十八書 河津烟  
三十九書 河津烟 四十書 河津烟  
四十一書 河津烟 四十二書 河津烟  
四十三書 河津烟 四十四書 河津烟  
四十五書 河津烟 四十六書 河津烟  
四十七書 河津烟 四十八書 河津烟  
四十九書 河津烟 五十書 河津烟

三國東一山乃御額河神並其河山にして其家也修り行場と申り心  
乃多修り多乃神玉乃改革公土農工高乃修り多其家之業改勤  
て天下由家(河)真修り多と其修業多事なり其修業事なり  
外(他)更なり其の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

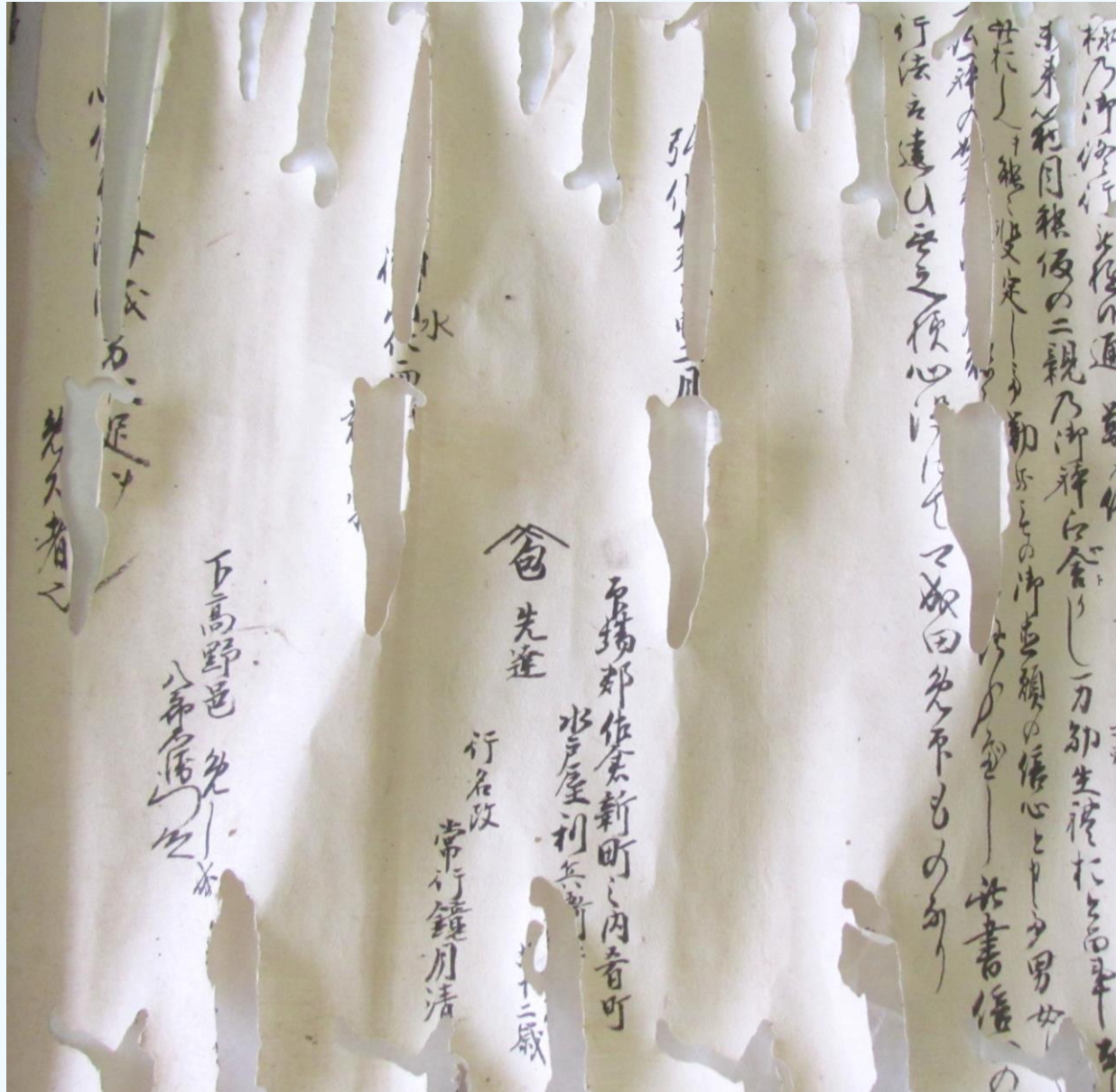
修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修



明茶山 佛徳山 聖徳山  
月心 月現 月行

修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
修り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修  
領り多事なり世の世とあり人の心なり多て鬼神とも世の中修

# 「不二行者世代巻」 文書二枚目の末尾



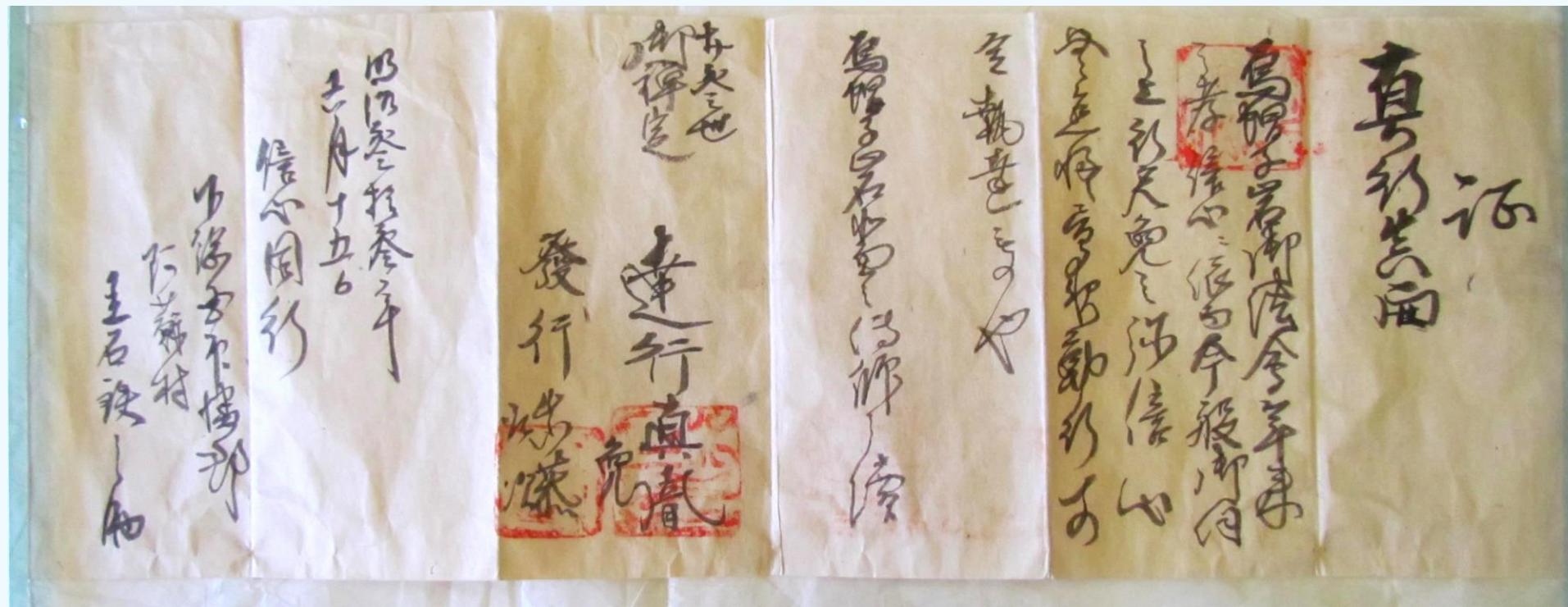
「不二行者世代巻」文書  
 「弘化五\*年（1848）戊申二月」に、  
 「佐倉新町内肴町 水戸屋利兵衛」  
 こと「山包講」の「先達」の「常行  
 鏡月清口」より、「下高野邑 八郎  
 右衛門殿」あてに「免（ゆる）しの  
 巻」として下された文書。  
 （\*は推定）

縦紙2枚に流麗な字体で書かれた長  
 文で、富士山の神仏の格、聖徳太子  
 の開山、「書行藤佛」（＝角行）の  
 事績（内八湖外八湖四海四嶋での荒  
 行、人穴での角材上の爪立行、「御  
 身抜」の啓示）と、「七世食行身  
 祿」の事績（御身抜に「参」の一  
 字を加えて「参明藤開山」と改め、  
 荒行の後、享保十五年入滅、後  
 に「菩薩」となる）とその教え、  
 この文書の取り扱い方が記されてい  
 る。

山包講は、江戸の修山禅行（包市郎  
 兵衛）が天明5年（1785年）頃にお  
 こした講で、禅行の弟子の市原市君  
 塚の正行真鏡から、文政年間頃、安  
 房をはじめ千葉県全域に広まったと  
 みられる。



行名免状「真行真面」 (明治33年6月15日)



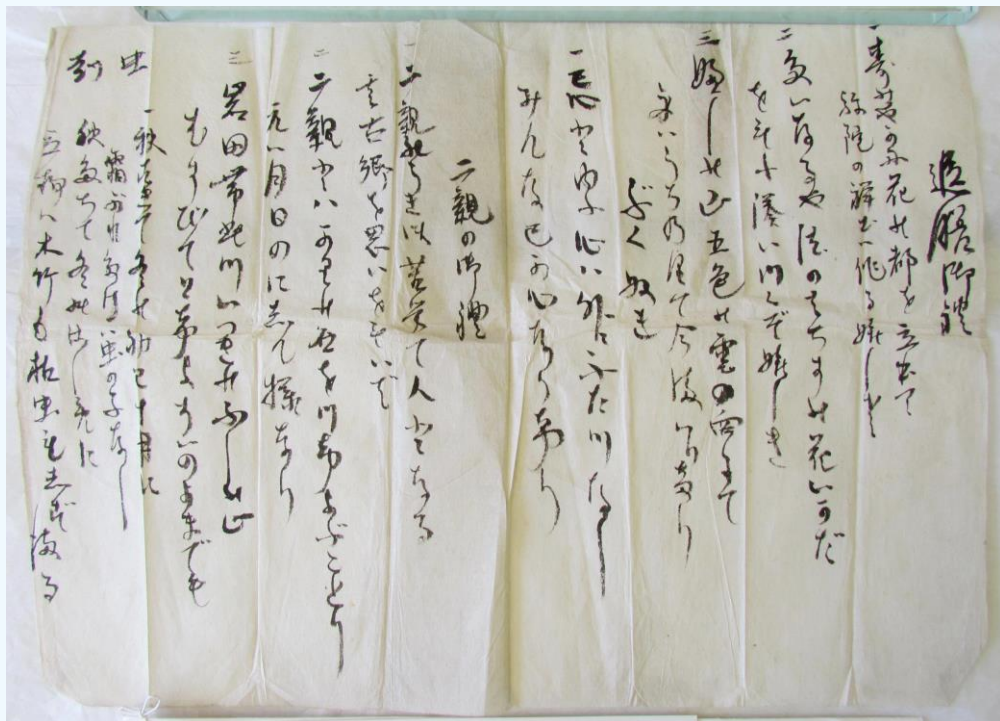
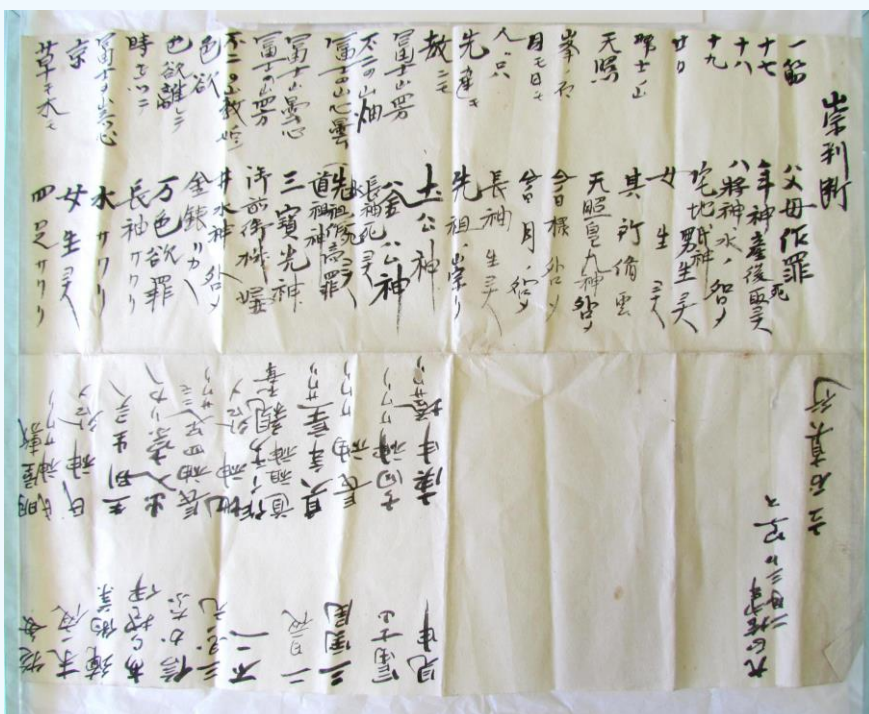
明治33年、達行真胤（割菱講の第24世）より  
立石鉄之助あてに発せられた行名「真行真面」の免状

「証  
 真行真面  
 烏帽子岩御法会年来ノ之孝信心ニ依而今般御伺ノ之上行名免之弥信心ノ無怠慢昼夜  
 勤行可ノ令執達もの也  
 烏帽子岩北面の伝師之続  
 廿参世ノ御禅定ノ達行真胤ノ免  
 発行真恭ノ取次  
 明治参拾参年ノ六月十五日ノ信心同行  
 下総国印旛郡ノ阿蘇村ノ立石鉄之助」

# 手書きの写し

## 「崇判断」写しの折紙

「崇判断」の内容として「一筋 父母作罪  
／十七 年神産後死霊」ほか33項目を列記し、  
末尾に「大正拾貳年二月三日写ス／立石真行」と記されている。  
講の行者として、村民の心配事の相談にも乗っていたのであろう。



## 「追膳（善）御礼」、「ぶくぬき」（服喪明け）、「二親の御礼」「虫封」の歌の写し

「追膳（善）御礼／一すみやかに花の都を立出て／弥陀の禅士ハ作る嬉しき／二たいなるや法のはちすの花いかだ／をもふ湊ハつくぞ嬉しき／三ふしの山五色の雲の向にて／身ハうちのりて今まいりけり  
ぶくぬき／一忌とゆふ心ハ外ニふたつなし／みんな己か心なりけり  
二親の御礼／一二親うれい苦勞て人となる／其古郷を思いをもハば／二二親とハかりの名をつけよぶことり／元八月日のにしん様なり／三岩田帯此ついつきのふしの山／むすびてとけよすいのよまでも  
虫封／一秋すきて冬の初わ十月に／霜がれたけハ虫の子なし／一秋たちて冬のはしめに／立物ハ木竹も枯虫もしずまる」

# 版本「富士講代々図」



「富士講代々図」は、高祖角行と二世日行・三世旺（がん）心・四世月旺・五世僧什（月行）、元祖身禄の尊像の絵で、天保3年（1833）の身禄百回忌に吉田の御師から印行された月行派の講祖代々の図と全く同じ絵である。



## 版本「浅間大神並扶桑教祖出現尊影」

「浅間大神並扶桑教祖出現尊影」は、日月、富士山の図中央に「木花開耶姫命」神像、「明藤開山 藤原角行」、「人穴」と角材上爪立行中の角行尊像、中段に角行の事績、下段に「正統二世日旺師」から「六世光清師」までと、「別立五世月行師」「別立六世身禄参明藤開山食行身禄尊師」の系図と事績が書かれている。

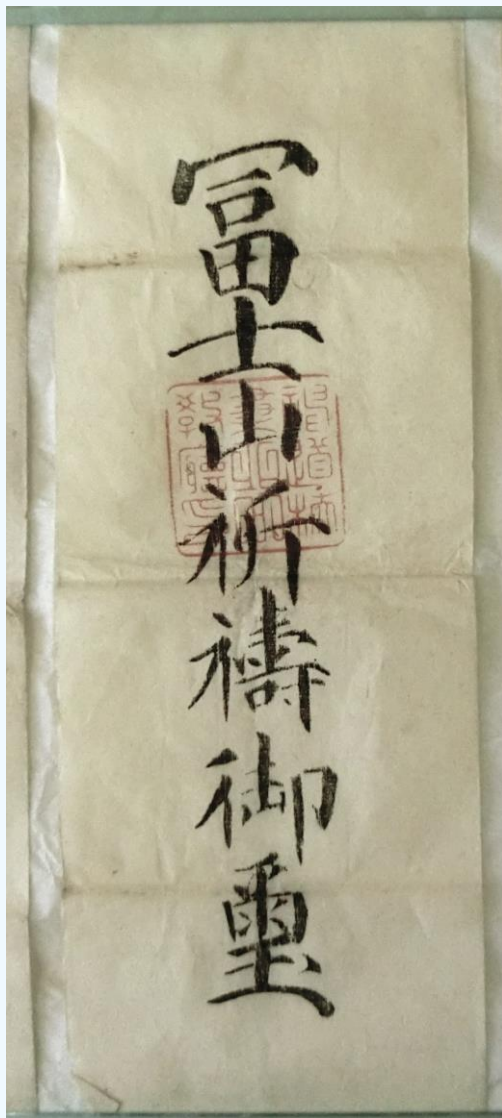
江戸後期に江戸八百八講といわれるほどに普及した富士講は、明治元年の廃仏毀釈、明治4年の政府による御師制度の廃止により、明治8年に富士山の仏教的地名が変更され、富士講は教派神道の教会組織に再編成される。北口浅間神社が中心になって組織されたのが、扶桑教会である。

本資料は、欄外に「明治十九年七月十八日出板御届」とあり、静岡県権訓導の許可を得て、扶桑教会より出版されたものである。



## 御札・オフセギなど御利益の品々

御札「富士山祈禱御璽」



御札「角行尊師之真像」



呪術用護符「オフセギ」



「人穴御垢」小袋



## 下高野の石造物・文書資料による富士講のあゆみ

弘化5年2月(1848)「不二行者世代巻」**山包講** 立石八郎右衛門

嘉永2年2月(1849) 仙元宮石祠 立石籐右衛門・立石傳左エ門

文久2年2月(1861) 小御嶽石尊大権現塔 立石傳左エ門など

明治33年2月(1900)手洗石 **丸不二講** 立石傳左エ門

明治33年6月(1900)行名(「真行真面」)免状 **割菱講** 立石鉄之助

昭和3年3月(1928)登山記念碑 **割菱講** 立石徳兵エ・立石鉄之助他38名

江戸後期から近代の下高野では、立石傳左エ門が、富士塚に見立てた裏山の富士講祭祀石造物の創設を行い、また立石八郎右衛門は山包講、同家の鉄之助は割菱講の行者として先達から行名が免されています。立石鉄之助は、富士登拝のほか、富士講行者としてムラの人々に吉凶の占いや病気防ぎなどの活動を行っていたことがわかります。

山包講＝市原市五井(修山禪行)⇒千葉県全域

丸不二講＝東京湾岸の江戸川・葛飾区～浦安・市川・習志野・千葉市～印旛郡北部

割菱講＝市川市行徳～船橋市～八千代市米本(弘化4年1847)～佐倉市などへ